

平岡いきものはっけん隊から  
お届けする地域の自然情報誌

表紙背景 佐藤勝信 画  
『夢に見た虫』シリーズより  
チョウ・ツクツクボウシ

# 季刊 湘南自然誌

2019年 秋の記録号 通巻15号

Vol.15

Shonan Nature Magazine  
2019 Autumn Report

## Contents

P1 ~ 平岡発 四季のたより

P3 ~ 特集「はこね・おだわら昆虫館」

P7 ~ はっけん隊 ACTION REPORT

P11 ~ みんなでつくる生きもの図鑑

P30 おえかきひろば

P31 NEWS・訂正 など



「うみのいきもの」ぬまのい ああと (4才)

## 特集

インタビュー

はこね・おだわら昆虫館  
に行ってきました！



さとう かつのぶ  
佐藤勝信 館長



# 四季の

平岡発 2019年9月～11月 秋の遊

## 身近な自然の探求を楽しもう！～前号コラムの続編～



平岡幼稚園の原っぱ池

この池は、2014年の保育参観で掘った手作りの池です。底は土なので、常時、井戸水で補給しています。

独立した水域である原っぱ池にカワリヌマエビの仲間が見られる謎について、鳥類による随伴移入の可能性が指摘された前号のコラム「平岡幼稚園の池は独立した水域なのになんでエビや貝類がいるの？」(Vol.14, p1)の続編です。

秋になり、またもや驚きの発見がありました。なんと原っぱ池で魚類が見つかったのです。元神奈川県環境科学センター研究員の齋藤和久先生にご相談したところ、「これはハゼ科のシマヨシノボリですね。頬にミズ状の模様が特徴です。ヨシノボリなどのハゼの仲間は、夏に川で産卵し、産れた子どもは海まで流下し、その後川を遡上します。遡上する子どもたちは、川や用水路など流れのあるところを遡上しますので、池の排水路から遡上してきた可能性があります(高さが数メートルの落差でも遡上します。チョロチョロの水でも大丈夫です)。エビ類なども遡上する種がいますので、カワリヌマエビの仲間もこのように分布域を拡大している

と考えられます。排水路があれば確認してみてください。」と教えていただきました。ご指摘を受けて改めて池の排水の流れを調べてみたところ、池の排水管は、下水桝や道路脇の側溝(図①)を経由して、約50m先の農業用水路(図②)に繋がっていることが判明しました。池からの排水量はごく僅かで、落差も2m近くある中、もしこのような場所を伝って遡上してきたのであれば、園児・教職員の誰もが思いもよらなかった驚嘆の事実ということになります。

以前、「オタマジャクシが空から降ってきた」という報告が世を賑わせましたが、自然界は私たちの常識や想像を超えた事象が起こる可能性を秘めています。今回、原っぱ池で見つかったエビや魚については、この数か月間、様々な想像を重ねて、移入経路の可能性を探ってきました。みんなで自然の謎を語り合うのは楽しい時間です。これからも子どもたちと一緒に、自然の多様な不思議さを感じることを楽しみながら、身近な自然の探求を続けていきたいと思っています。



カワリヌマエビの仲間



シマヨシノボリ幼魚



図①



図②

## ぼくたち・わたしたちが見つけたワンダー (2019年秋季版)

自然はワンダーの宝庫です。2019年秋季に園児たちが盛り上げていた遊び事例「スプーンの実」「秋の宝石集め」「美味しい実」「ハロウィンおばけ」を紹介します。

### Happy Halloween



ハロウィンのおばけだよ!

Trick or Treat!

### スプーンの実



スプーンの形をした胚

この中にスプーンが入っているんだよ!

ネズミモチの実

こわれないようにそおっと...

キレイにとれた!!

### 秋の宝石集め



ノブドウの実ってカラフル♡

### 美味しい実



ムクノキの実

これが旨いんだよ!

あまーい♡

※1 このコラムは平岡幼稚園の『園だより』2019年10月～12月号を一部改編して掲載しています。

ワンダーランド!

# たより



文：堀田 佳之介  
絵：富岡 誠一

びとコラム※1

## ワクワク・ドキドキ！秋の色

夏季にみんなで楽しんだツユクサ、オシロイバナ、フユサンゴなどを使った色水遊びは、秋の素材（クサギ・カントウヨメナなど）も加わり、益々の盛り上がりを見せています。赤・青・紫・黄・橙色など様々な素材を探してきて「これは何色が出るかな？」と色々と実験している子どもたち。色が出るもの出ないもの不思議を感じたり、色が出るときの喜びやドキドキ・ワクワク感が伝わってきます。先日、白色の色水を作った園児がいました。いったい何を入れたのだろう？と聞いてみると「オシロイバナの種を割って作った」とのこと。なるほど、私には思いもつかないような、個々の楽しい発想にはいつも驚かされます。友達の作った赤色の水と混ぜて”いちごミルク色”を作ったり、仲間同士で発見を刺激し合いながら、遊びを発展させています。園内での秋あそびは秋の終わりまで盛り上がりました。



すごい綺麗でしょ☆

ほら！色が変わるんだよ～



混ぜたら何色になるかクイズ！

何色になるかな～？



ペットボトルに入れて教室に飾ろう！



青に緑に黄色いろいろできたよ！



教室に並べて置いたら…

昨日と色が変わってる！

## 秋のシンフォニー 草むら合奏団

2学期に入り、園内では秋の鳴く虫の便りが続々と届くようになってきました。チン・チン・チン と一定のリズムで鳴くカネタタキ、リーーーーと樹上で鳴くアオマツムシ（外来種）、ジー・ジー・ジー と鳴くマダラスズ、コロコロ〜リ〜リ〜と鳴くエンマコオロギ、スイッチョンスイッチョンと鳴くハタケノウマオイ、耳を澄ませてみると私たちの周りには色々な生きものが奏でる秋の音が聞こえてきます。初秋のころは涼しくなる夜に鳴くのですが、秋が深まるにつれて昼間でも色々な鳴き声が楽しめます。

ちなみに私には“絶対音感”は無いのでわからないのですが、セミを愛する音楽家の友人に言わせると、同じセミでも若い個体と老熟した個体では微妙に音程が違うとか。彼の音感には虫の鳴き声によって培われてきたそうです。なぜ鳴くの？（鳴く意味）や、音を発する様子（仕組み）など、鳴き声に関係する面白さへのアプローチはさまざまです。近所の公園や家の庭、道端の草むらなど、あちこちから聞こえてくる鳴く虫に注目して、季節の風情を楽しんでみると面白いですよ。

### 身近にみられる秋の鳴く虫たち※2



ウスイロササキリ

ホシササキリ

アオマツムシ(外来)

カネタタキ

ミツカドコオロギ

ハラオカメコオロギ

ツツレサセコオロギ

エンマコオロギ

マダラスズ

シバズ

ハタケノウマオイ

ヒメクダマキモドキ

※2 写真にはメスも含まれていますが、ヒメクダマキモドキ以外はオスしか鳴きません。



# 夢いっぱい私設博物館

# はこね・おだわら昆虫館 に行ってみた!

はこね・おだわら昆虫館 館長  
さとう かつぶ  
**佐藤 勝信 先生**

インタビュアー：平岡幼稚園園長 堀田佳之介

1級こども環境管理士、2級ビオトープ施工・計画管理士  
神奈川昆虫談話会会員、ひらつか生物多様性推進協議会幹事

2019.11/2、はこね・おだわら昆虫館にて

## はこね・おだわら昆虫館に行ってみた

堀田佳之介（以下、堀田）> 今日「はこね・おだわら昆虫館」について、館長である佐藤勝信先生にお話を伺いに来ました。以前友人の紹介で何度か訪れているのですが、その時の先生のお話がとても興味深かったので、改めて取材を申し込ませていただきました。今日はよろしくお祈りします。まずは、先生がこの昆虫館を始められたきっかけについてお伺いしたいと思います。

佐藤 勝信（以下、佐藤）> 「身近にこんなに虫がいるんだよ。君たち見たことあるかな？無ければ探してみなよ？」と伝えられる場所を作りたかったんです。今は環境が変わってしまって、子どもたちが日常的に虫と触れ合うことが難しくなってますよね？また、親も生きものと触れ合っただけでこなかった世代になっていますし、家庭で子どもに自然に対する刺激を与えることもあまり期待できない。だったら、それぞれの地域にこの昆虫館のような場所があればいいのかなど。

堀田 > いつごろから始められたんですか？

佐藤 > 2007年に始めたんですよ。死ぬまで続けようと思っています。生きていうちに自分がやってきたことをいくらかでも社会に還元したいので。

堀田 > 小田原・箱根産の昆虫の標本箱が所狭しと並ん



50年前の箱根・小田原の貴重な標本の数々

## 〈佐藤 勝信 先生 Profile〉

1945年開成町生まれ。少年時代から小田原・箱根の山に通い詰め、中学3年時に生態研究の成果が県最優秀賞を受賞。小田原高校卒業後、東京教育大学（現筑波大学）にて昆虫学を学ぶ。箱根町教育委員会社会教育指導員を退任後、2007年に「はこね・おだわら昆虫館」を開館。

元環境省自然公園指導員。箱根蝶の会顧問。日本きのこアートの会々長。元東京製菓学校講師。元小田原准看護学院講師。

著書に『箱根の昆虫—はこねを食べる妖精たち—』『箱根の植物』（神奈川新聞社）、『湘南博物誌 身近な生きもの観察の手引』（夢工房）、『箱根の文化財9号 箱根の蟬』（箱根町教育委員会）、『箱根おだわら 花の旅』（小田原商工会議所）などがある。

でいますが、ガムシやミズスマシなどは見られなくなってしまった貴重な標本もありますね。

佐藤 > この標本は、50年前、身の回りにどんな虫がいるのか徹底的に調べてみようと思って集めたものです。虫だったらなんでも集めてた。収蔵庫には箱根・小田原産だけでも200箱、2万点はありますね（笑）。年に一回の防虫剤の入れ替えが大変ですよ。うちに出入りしていた子が手伝ってくれているんですけど、何もしないと虫に喰われてあっという間にボロボロになります。

## 虫の名前よりも大切なこと

堀田 > 地域のお子さんがここへ虫を持ってきて先生に名前を聞きに来るようなことはあるんですか？



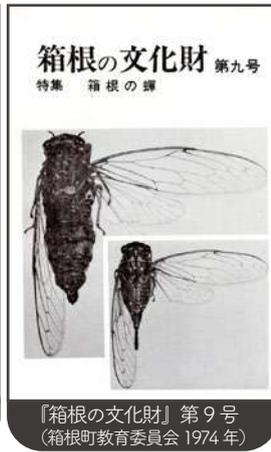
佐藤勝信先生の著作 左から『湘南博物誌』（夢工房）、『箱根の植物』（共著）『箱根の昆虫』（神奈川新聞社）



梶足柄ふれあいの村  
観察ガイド(春~冬)監修



『箱根おだわら花の旅』  
(小田原商工会議所)文・案内



『箱根の文化財』第9号  
(箱根町教育委員会 1974年)



昆虫館では生き物観察や研究もできます

佐藤 > たまに來ますね。そういう時は、図鑑は一通りあるからその虫が載っているあたりを開いてあげて、「あと自分で調べてみなさい」ってやるんですよ。何でも自分でやらせてみるのが一番いいと思っているのでね。あと、最近はあまり名前にはこだわらないようにしています。学者でもない限り、何のグループか?くらい分かればいいんじゃないかと思ってるんですよ。子どもの頃は特に、面白くて夢中になって遊ぶのがいい。目的なしに虫をいじくりまわしたり、半日眺めたり、いろんなものを食べさせてみたり。そういう経験が大事だと思っています。

堀田 > 名前を知って終わりじゃもったいないですね。

佐藤 > ええ。虫のことを知ろうとして来た子が、別の何かを感じて帰るといふのもこの館の目的なんです。名前が分かってじゃあその後どうするのか?家で最後まで飼う?もとの所に戻してあげる?子どもに飼われて死んでいくのと、野山で虫に喰われて死んでいくのとどっちが幸せなんだろう?虫は幸せを感じないのかな?そんなことも感じてほしい。

堀田 > 何気なく行われる昆虫採集からも、簡単には答えの出ない深いテーマが引き出せますね。

佐藤 > 私なんて研究のためとはいえ、こんなに虫を殺してきた。どうにかそれを償いたいんですよ。今は散歩するときにはアリをよけて歩きます。一匹もアリを潰さないという記録がもう10年続いています(笑)もうこれ以上無駄に殺さない。それが私なりの虫への愛情の現れかな…

### 子どもと研究~調べる楽しみをともに

堀田 > 先生が顧問を務めていらっしゃる「箱根蝶の会」の事務局は、この昆虫館になっていますが、どのような会なのですか?

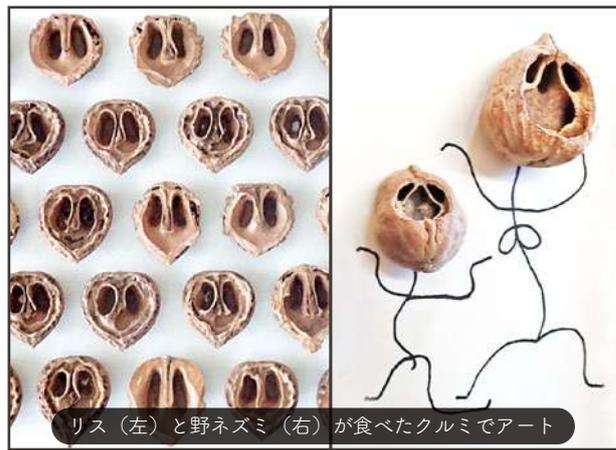
佐藤 > 小田原高校の先輩の牧林さん(本誌 vol.14 の特集に出演)にお声がけして1996年に発足した会で、生きものが好きなら誰でも入れます。会の名前に「蝶」とありますが、チョウに限らず何でも調べていて、正確なデータであればセミでも何でもすべての投稿を載せています。

堀田 > 以前いただいた箱根蝶の会の会報「箱根と蝶」(89号P1~4)にセミの研究が載っていたので、不思議に思っていたのですが、そういうことだったんですね。アブラゼミは翅をどこまで切ったら飛べなくなるのか?という中学生の研究でしたが、あの論文は面白かったです。発表をされた中学生はここに来ている子なのですか?

佐藤 > そうです。夏休みの自由研究の相談をされた時に、セミに興味があるとのことだったので、「ちょっと可哀想だけどセミはどのくらい翅を切られたら飛べなくなるのか調べてみたら?」と提案してみたんです。他にも、セミを水に表向きに浮かべるのと裏向きに浮かべるのでは、動かなくなるまでの時間にどのくらい差が出るのか?なんてこともやってみたんですけど、これは残酷すぎましたね。今は反省しています(笑)。でもそんな実験のなかで、セミはどのように飛ぶのか?どこで呼吸しているのか?が実感を伴って理解できるわけです。その子は今は大学で林業・農業関係に進んでいますよ。



遊び心満載の6畳の展示室。虫好きにとっての宝の山です



堀田 > 子どもたちの研究活動は、他にもされているのですか？

佐藤 > 色々やっていますよ。この報告（月刊むし 509号 P38-39）はご存知ですか？昆虫館の観察クラブの子どもたちと一緒に、ハラグロオオテントウをみんなで調べたんですよ。

堀田 > 子どもたちと生物研究をしたり、一緒に自由研究の課題まで考えたり、そこまで付き合ってくれる先生はなかなかいませんね。

佐藤 > 私は小田原高校のすぐ近くに住んでいたの、生物部の部室に遅くまで入り浸って先輩に色々教えてもらうことができたんですよ。そういう面では恵まれていたので、今度は自分が教える立場でこの昆虫館をやっている感じですね。でもなかなか多くは来てくれないねえ（笑）。スペース的に大人数は対応できないので、積極的に宣伝していないこともあるんですけどね。

堀田 > 平岡幼稚園も、卒園児が園に戻ってきて昆虫のことを聞きに来てくれるような拠点になってくれると嬉しいんですけど、なかなかそこまでは実現できていませんね。

### 標本やイラストを入り口にして

佐藤 > 子どもは外国の虫に非常に興味を持ちますから、「つぎ来たらタランチュラ見せてあげるよ」って言って標本を買って見せてあげたり、色々な生きものを紹介しながら次に繋げていますよ（笑）。この後ろの棚の標本箱には外国産の虫もたくさん入っているんです。



外国産の標本も多く所蔵

壁面にはアトラスオオカブト

堀田 > そうだったんですね。そういえば壁面には子どもにも大人気のアトラスオオカブトが飾ってありますね。子どもの絵もありますが、これは？

佐藤 > 近所の子が描いて持ってきてくれるんですよ。そうしたら「好きな絵、持ってっていいよ」って言って私のイラストをプレゼントする。するとまた描いて来館してくれる（笑）

堀田 > 平岡幼稚園の職員室にも、以前購入した先生のイラストのポスターを貼っているのですが、子どもたちに大人気なんです。虫を持ってくるには「この中のどれかなあ？」なんて探して調べています（右下写真）。

佐藤 > そうですか。そういう話を聞くと、やってよかったなあって思いますね。私のイラストが虫の世界への入り口になっているのなら嬉しいことです。まだ在庫があるのでポスターはここへ来たら購入できますよ。

堀田 > 様々な分類群を網羅しているので見応えがありますし、子ども部屋に一枚、お勧めしたいですね。

### 次世代へ継承するために

堀田 > 以前、先生が集めた小田原・箱根の昆虫標本を、小田原市郷土文化館に寄贈したということを目にしたのですが。

佐藤 > いえ、寄贈しようと思ったのですが、標本の展示はせず資料として倉庫にしまってしまうという話だったので、それでは意味がないと思って、やはりこの昆虫館で所蔵することにしました。今、うちに出入りしていた子が副館長をやってくれているんですが、



先生のポスターは平岡幼稚園でも大人気です

この虫はこれかな?



ボールペン画「夢で見た虫」



ナスカの地上絵風「十本脚のタマムシ」



ニレカワノキクイムシの食痕を活かした作品

私がいなくなった後も、この館の運営を引き継いでもらえるように考えています。私ももう歳なのでね。

堀田 > 箱根・小田原地域の子どものためにもこのような場が維持されていくのは有益ですね。貴重な標本ですから、散逸しないように、未来の世代まで有効活用できると良いですね。

### 夢が詰まった昆虫館

佐藤 > これ(左上写真)は「夢に見た虫」というテーマで描いたボールペン画です。私の遊びなんです。私は学者になることが夢ではなくて、一生虫と遊んでいようというのが私の夢。70年そうやって生きてきた。ニレカワノキクイムシの食痕を利用したオブジェを作ったり(右上写真)、自然を題材にした詩集を作ったり。ナスカの地上絵をヒントにして、石に生きものの絵を描いたり(上段中央写真)。10本脚のタマムシ(笑)。チョウの仲間には6本脚があっても前の2本が小さくなって隠れてる種類もあるでしょ? 4本で歩いているわけです。だったら逆にもっとあったっていいじゃないかって。ここへ来る子どもも何人かまねして描いてましたよ。

堀田 > この部屋にはいろんな夢が詰まっていますね。子どもたちが驚いたり、夢を膨らませたり、命について思いを巡らせたり、そういう素材がたくさんありますね。最後に、この部屋の壁面に飾られている「若いあなたに」と題された先生作の詩を紹介して、この特集を終えさせていただきます。今日はどうもありがとうございました。



地域の自然を楽しむヒントがいっぱい!  
**はこね・おだわら昆虫館**

アクセス: JR 小田原駅から箱根方面行きのバス「諸白小路」下車

住所: 小田原市南町 1-4-30

開館日: 土曜日・日曜日

開館時間: 午前 11 時~午後 17 時

お問合せ: 0465(24)3948 / 090 (7721) 8813

急遽休館することもあるので、問合せをしてからご来館くださいとのことです。

**入館無料**

団体は 6 名程度まで

若い あなたに

美しく大人になるためにもっと勝手をやるといい

背中の羽はそのためにだれかがそっとくっつけておいていったものだから

美しい大人になれるのはそれほどたくさんないんだよ

羽を落としてしまったり

曇み方を間違えて

すぐには開らけぬ苛立ちに人をいじめてしまったり

二度とは生えない羽だから無理せずゆっくり楽しんで

最期に大人になろう



詩集『何度目かの初恋』(自主出版)より

地域の自然を知ろう!守ろう!伝えよう!

# 平岡いきものはっけん隊 アクションレポート Action Report 2019.9月~11月

こんなにデカイ  
モクズガニ  
初めて見たよ!!

多くの恵みをもたらしてくれる自然を、私たち1人ひとりが大切にしたい!と思うことが、地域の自然を守っていく第一歩となるはず。本コーナーには、平岡幼稚園が行った2019年秋季のアクションと、地域の自然観察スポットの情報等を盛り込んでいます。皆様の自然体験の一助になれば幸いです。

9/23、葛葉川にて

## R<sup>1</sup> Report くずはの家であそぼう!

2019年9月23日(月祝)の10:00~14:00に、秦野市立くずはの家に遊びに行ってきました。葛葉緑地は、住宅地に囲まれた峡谷で、一歩足を踏み入れれば、緑あふれる別世界に変わります。ここ3年は天候に恵まれず室内での活動となっていました。今年4年ぶりに葛葉川で遊ぶことができました。やはりここに来たら、川遊びが一番楽しいです!



石の裏には何があるかな?

サワガニとアブラハヤがとれたよ!



金目川の支流「葛葉川」

午前中に実施した“葛葉川の生き物探し”では、オニヤンマ・ミヤマカワトンボ・コヤマトンボのヤゴや、サワガニ・モクズガニ、アブラハヤなどたくさんの生き物とふれあうことができました。最も驚いたのは、立派なモクズガニが2匹も見つかったことです。親も子どももビックリの大きさでした。午後は、くずはの家に戻って金目川水系流域ネットワークの皆さんによる、楽しいお話や、絵画制作活動を行いました。最後になりますが、本イベントを開催していただいた金目川水系流域ネットワークの皆様に感謝申し上げます。



アブラハヤ

オニヤンマ幼虫

見つけた水棲昆虫類

コヤマトンボ幼虫

モクズガニ



川の生き物の絵画

サワガニを描いたよ!

金目川周辺で見られる鳥類のお話

アブラハヤって綺麗!

葛葉川の水族館

わたしたちが遊んだ「葛葉緑地」はココ!

葛葉緑地の自然保護活動の拠点「秦野市立くずはの家」

秦野市曾屋 1137 Tel: 0463-84-7874  
休館日: 原則月曜日・祝日の翌日  
開館時間: 9時~17時

## R<sup>2</sup> Report アオバト観察会

2019年9月28日(土)の7:30～8:30に大磯町照ヶ崎海岸に行って、アオバトを観察してきました。大磯町照ヶ崎海岸は、アオバトの集団飛来地として神奈川県天然記念物に指定されています。アオバトは、黄～緑色をした森のハトです。主食の果実で補えないミネラル分を補給するために、丹沢からはるばる照ヶ崎海岸まで海水を飲みに来るのです。この日も、多くのアオバトが海水を飲みに来ており、その姿を皆で観察することができました。



この観察会はアオバトの研究をされている野鳥観察グループ「こまたん」の皆さんにご協力いただきました。子どもたちが観察しやすいように望遠鏡をセットして下さったり、アオバトの不思議や面白さについてご解説いただいたり、アオバトづくりの楽しい時間となりました。「こまたん」の皆さま、ありがとうございました。

### わたしたちが遊んだ「大磯・照ヶ崎海岸」はココ!

アオバトの集団飛来地として県の天然記念物に指定されている照ヶ崎海岸。アオバトを見るなら5月～9月の早朝がおすすです。その時期は「こまたん」の皆さんが毎日のように観察されているので、いろいろ教えてもらえますよ!

大磯港駐車場  
1時間310円(1日上限1020円)



## R<sup>3</sup> Report 県立茅ヶ崎里山公園自然観察会

2019年11月9日(土)の9:30～12:30に、県立茅ヶ崎里山公園内にある柳谷で、茅ヶ崎野外自然史博物館主催の観察会に参加してきました。今回は募集が遅くなってしまったのですが、直前のお誘いだったにもかかわらず、遊びに来て下さった方々に感謝です。

今回のテーマは「秋色に染まる動植物」でした。里山公園公では全部で5種類ドングリが拾えます(クヌギ・コナラ・シラカシ・アラカシ・スダジイ)。それぞれの特徴を観察して見分けてみたり、美味しいドングリ「スダジイ」の試食にもチャレンジしました。

期待していたアキアカネなどのアカネ類は少数でしたが、カマキリ類(オオカマキリ・コカマキリ・ハラビロカマキリ)は多かったです。虫カゴの中がカマキリだらけになっている子も(笑)。鳴く虫では、オナガササキリがあちこちの草むらでジジジとよく鳴いていたのも印象的でした。芹沢の池ではコガモやマガモなどの冬鳥も見られ、生き物たちの冬支度も始まっていることも体感できた、楽しい観察会になりました。



### 私たちが遊んだ「県立茅ヶ崎里山公園」はココ!

園内里山保全エリアでは多くの生きものが見られます。他に、大型遊具やバーベキュー場、お食事処もある大きな公園です。

茅ヶ崎市芹沢 1030  
Tel: 0467-50-6058



## R<sub>4</sub> Report 平岡幼稚園ビオトープ観察会

岡崎地区の住民の皆さんを対象とした平岡幼稚園のビオトープ観察会を、2019年9月14日（土）の9：30～11：30に岡崎公民館と共催で実施しました。この観察会は、平岡幼稚園の園児にビオトープの楽しさを伝えるナビゲーターとなってもらい、地域の皆さんと一緒に地区の豊かな生きものたちとふれあうことを目的としています。



運動場で虫探し!



クイズ!  
このトンボは  
オス・メスどちら  
でしょう??



井戸水を溜めて作った原っぱ池には  
たくさん生きものが見られます。

原っぱ池の水族館づくりでは、ミズカマキリ・コマツモムシ・コシマゲンゴロウ・ハイロゲンゴロウ・コガムシ・ヒメガムシ・マメガムシ・ギンヤンマ幼虫・ショウジョウトンボ幼虫・ウスバキトンボ幼虫・アオモンイトトンボ幼虫・ホソミイトトンボ幼虫・ヒメアメンボなど多くの生きものを集めることができました。その他にも、平岡の森で実施した家族対抗サワガニ探し大会など、みんなの笑顔があふれる楽しい観察会となりました。



原っぱ池の水族館づくり



ミスカマキリ



トンボ類の幼虫



台地の麓の湧き水付近で  
サワガニ探し大会の様子!

デカイ  
サワガニが  
いたー!!



クビキリギス幼虫



ナミアゲハ



平岡幼稚園のビオトープを舞台に、  
地域の方々と交流を深めることができました!

## R<sub>5</sub> Report 平岡幼稚園のケラを研究機関に提供しました

皆さん、ケラはご存知でしょうか? 「手のひらを太陽に」の歌詞に出てくる、あの「オケラ」です。地下で生活していることが多いため、普段はあまり目にする機会がないかもしれませんが、「おけら（所持金が無い状態）」・「けら芸（半端に多彩なこと）」などという言葉に象徴されるように、昔から身近な昆虫として日本の文化にも根付いてきた昆虫です。

県レッドデータブック2006によれば、近年水田の乾燥化などにより減少傾向にあるとされています。

さて、このケラですが、先日、牧林 功先生（前号特集に出演）より、研究に使用するサンプルの採集依頼を受けましたので、2学期より園内で子どもたちとケラ探しをしておりました。なかなか見つからず、もうだめかと諦めかけていた10月30日、池の補修作業をしていた富岡さんより「ケラ(幼虫)発見」の報告が入りました。採集されたケラは、研究先である首都大学東京動物系統分類学研究室の林研究員に送付いたしました。



かわいいね♡

これがケラなんだ!  
初めて見た!



ケラ(5齢幼虫)

### ケラ採集に協力して下さる方へ



林研究員より送付用の容器を複数預かっております。全国各地のサンプルを集めているとのことですので、もし提供可能な方がいらっしゃいましたら、平岡幼稚園まで（採集日・採集場所・採集者名をメモしておいて下さい）。期限は2020年夏ごろまでとのこと。皆さんの発見が、ケラに関する新発見の扉を開くかもしれませんよ!



## 園が寄贈した標本が平塚市博物館で展示されました

平塚市博物館に寄贈したヒメリンゴマイマイ、トクサオカチョウジガイの標本が、2019年11月30日～12月26日に行われた新着資料展で展示されました。ヒメリンゴマイマイは園児が2018年8月にイタリアで採集してきたもので、トクサオカチョウジガイは2018年10月に平岡幼稚園内で園児と教職員が見つけたものです。これからも、みんなで様々な発見を重ねながら、標本寄贈や生物記録の発表等により、地域の知的財産・生物学的遺産の積み上げに寄与していけたらと思っています。



### ヒメリンゴマイマイ・トクサオカチョウジガイって、どんな貝？



ヒメリンゴマイマイ  
*Cornu aspersum*  
(O. F. Muller, 1774)



トクサオカチョウジガイ  
*Paropeas achatinaceum*  
(Pfeiffer, 1846)

ヒメリンゴマイマイはいわゆる“エスカルゴ”の一つで、市場ではプチ・グリ (petit-gris) と呼ばれています。本種は、日本では農業上有害な外来生物とされ、これまで大阪府・東京都・茨城県で見つかっています。

トクサオカチョウジガイは、熱帯域からの外来種で、西南日本から分布を拡大している種です。民家の庭、公園、道路の植え込みなどでよく見られるので、人の移動や園芸植栽などに伴って非意図的に分布を拡大していると考えられています。

(解説：神奈川県立生命の星・地球博物館 佐藤武宏学芸員)



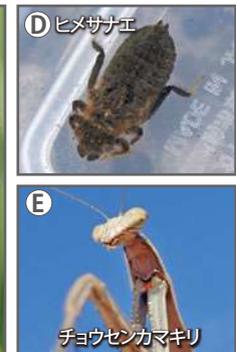
【Vol.12・P14の訂正】  
寄贈標本の種名が、オカチョウジガイとなつていますが、正しくはトクサオカチョウジガイでしたので訂正いたします。



## 文献紹介～園の活動で得られた新知見を発表しました～

我が園の活動等で得られた新知見が以下の通り、神奈川虫報（神奈川昆虫談話会）、Cicada（日本セミの会）、かまくらちょう（三浦半島昆虫研究会）に掲載され、貴重な生物記録を地域に還元することができました。

なお、文献紹介は、前号までは図鑑コーナーの末欄に掲載していましたが、今号より活動報告に組み込むこととします。また、C・D・Eは2018年3月に発表されたものですが、本誌での紹介が漏れていましたので、今号に収録しました。



- ①は平岡幼稚園主催のライトトラップ観察会にて発見されたフタモンクビナガゴミムシとギンモンズメモドキの報告です。前者は県内では極めて記録が少ない種で、県内6例目の発見となりました。後者は山地性の種で、県内の低地では初記録となりました。
- ②は2018年のセミのぬけがら調査の際に発見されたミンミンゼミ赤色型（通称アカミンミン）がきっかけで行った調査報告です。2019年も赤色型が発見されました。
- ③は2017年の春の遠足「よこはま動物園ズーラシア」で発見した、県絶滅危惧種ヨツボシトンボの記録です。
- ④は平岡幼稚園が行った河川調査の際に発見されたヒメサナエの新産地の追加報告です。
- ⑤は茅ヶ崎市の柳島海岸で撮影されたチョウセンカマキリです。海岸からの記録ということで採用されました。

【文献情報】

- A) 堀田佳之介, 2019. 大磯丘陵で目撃された特筆すべき昆虫類2種. 神奈川虫報, (200): 87-88.
- B) 林 正美・堀田佳之介, 2019. 神奈川県湘南地域におけるミンミンゼミ赤色型の再確認. Cicada, (26): 1-3.
- C) 堀田佳之介, 2018. 横浜市旭区でヨツボシトンボを目撃. かまくらちょう, (93): 25.
- D) 堀田佳之介, 2018. 伊勢原市におけるヒメサナエの記録 (第2報). かまくらちょう, (93):38-39.
- E) 梶 真史, 2018. カマキリ目. 神奈川県昆虫誌 2018: pp.122-126. 神奈川昆虫談話会, 小田原.